



耳が遠くなることを難聴と呼びますが、これには大きく分けて次の2つの種類があります。

鼓膜と3つの耳小骨（ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨）によって音はおおよそ10,000倍になって脳に届いているのですが、この鼓膜に孔があいたり、耳小骨が欠損したりして難聴が生じるのを「伝音難聴」と呼びます。この伝音難聴は補聴器を使用すると良く聞こえるようになりますが、一方で鼓

膜の孔を塞いだり、失われた耳小骨を代わりの骨で再建したりする手術を行うことによって、補聴器を使用することなく聞こえの改善が期待されます。

鼓膜の孔が閉じなくなり、耳漏（耳だれ）を繰り返して聞こえが悪くなる病気が慢性中耳炎ですが、日帰りで鼓膜穿孔を閉鎖する鼓膜形成術をしたり、入院の上全身麻酔下に中耳にはびこる細菌の巣を清掃したうえで鼓膜を再建する鼓室形成術を行ったりします。また、原因不明で耳小骨を破壊して聞こえが悪くなり、さらにその周囲にある顔面神経や三半規管、ひいては脳内にも影響を及ぼす疾患が真珠腫性中耳炎であり、こちらは難聴の改善を目指すというよりは、これら合併症を防ぐ目的で手術治療が必須となります。加えて、鼓膜は正常でも徐々に耳小骨の動きが悪くなる耳硬化症という病気も手術による改善が期待できます。

もう一つの難聴の種類が、鼓膜、耳小骨に続く蝸牛（音を感じる有毛細胞の存在する部位）もしくは蝸牛から脳へと音を伝える蝸牛神経のいずれか、もしくはその両方が障害される「感音難聴」です。その代表的な疾患が突発性難聴であり、こちらは原因不明で、ある日突然片耳が聞こえなくなります。発症早期の副腎皮質ステロイド剤が有効とされていますので、急に片耳の聞こえが悪いことに気付いた場合には、できるだけ速やかに耳鼻咽喉科を受診してください。その他の感音難聴の代表疾患はメニエール病です。この疾患は一般にめまいの病気と捉えられていますが、めまいに伴い片側もしくは両側の難聴も生じます。いったんよくなって繰り返すのが特徴で、ビタミン剤や利尿薬、漢方薬を中心とした薬物治療を行います。なかなかよくなる場合には手術を行うこともあります。

そして感音難聴の代表疾患として忘れてはならないのが聴神経腫瘍です。これは音を脳へ伝える蝸牛神経のすぐ横を前庭神経（三半規管を通じて身体のバランスを司っている）が通っており、この前庭神経から生じた良性腫瘍が蝸牛神経を巻き込むために難聴を生じます。およそ10万人にひとりと言われていて決して多くはない病気ですが、いつ起こったのかわからない片側の感音難聴や突発性難聴で治りの悪い場合にはMRIを撮影し、聴神経腫瘍がないことを確認しておくことが勧められます。

難聴を引き起こす疾患はこれら以外にもたくさんありますので、聞こえでお困りの場合にはお気軽に耳鼻咽喉科医に相談ください。

昭和医科大学医学部耳鼻咽喉科 濱田 昌史



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950